

学校情報セキュリティセミナー2020 レポート

～GIGAスクール構想を安全に実現するための学校体制を考える～

広教ニュースレター

Vol.30



広教 2020.11
HIROKYO

<https://www.hirokyou.co.jp/>

学校情報セキュリティ

第1回

学校情報セキュリティセミナー2020 ～GIGAスクール構想を安全に実現するための学校体制を考える～

九月二十六日、「学校情報セキュリティセミナー2020」GIGAスクール構想を安全に実現するための学校体制を考える」の第一回がオンラインで開催された。今話題のGIGAスクールに向けて学校や教育委員会は何をすべきかを、現場の先生方や著名な識者が実践報告や講演を行うとあって、教育関係者の関心は高く、全国から約二二〇名もの先生方や教育委員会関係者らが視聴した。今回はその模様をレポートする。

TOPIC 01

ウィズ・コロナの時代に オンライン研修の重要性高まる

セミナーに先立ち、主催者である一般社団法人・日本教育情報化振興会の山西潤一会長が挨拶した。今回のセミナーは新型コロナウイルスの影響でオンライン開催となったが、「これからの時代、オンラインのセミナーや研修の充実が期待される」と、山西会長は指摘。GIGAスクールは今までは違ったICT活用であり、教員のICT活用指導力の向上や、そのための研修の実施が必要になってくると語った。

TOPIC 02

GIGAスクールには 働き方改革にもつながる

続いて、昨年まで札幌市の小学校で長年校長を務め、ICTを使って教員の働き方改革を進めてきたNPO法人ほっかいどう学推進フォーラムの新保元康理事長が「GIGAスクールと働き方改革」と題して特別講演を行った。
「国がGIGAスクール構想を進めるのは、働き方改革にもつながる」と、まず新保氏は強調した。例えば授業で使う教材を他の先生方とクラウドで共有できるようにすれば、教材研究や授業準備が楽になる。子供の成果物もクラウド上に保存すれば、学級便りで紹介したり評価したりするのが楽になる。GIGAスクールの1人1台やクラウドによって、先生方の負担軽減が期待されるのだ。

「しかしICTが整備されただけでは、働き方改革は進まない」とも、新保氏は続けた。日常的に行える「小さなICT活用アイデア」を積み重ね、教員間で教材などを共有するのが当たり前になっていかねばならない。最初は慣れないためだ、継続すればいずれはかなり楽になるはずだと「見通し」を持つことが大事だと、新保氏は助言した。
「そして研修で学び続けることが大切。特にセキュリティの関係は、今後もどんな状況が変わっていくか。しかし先生方は時間がないから、eラーニングの活用が求められます。eラーニングなら、それぞれが自分のペースで、ちょっとした隙間の時間に、繰り返し勉強し、誰が何を学んだかを先生方も管理職も確認できます。このような研修の工夫が、これから大事になるでしょう」

TOPIC 03

多くの学校ですでに活用 されているeラーニング教材

そのeラーニング教材としてすでに多くの学校で利用されている「事例で学ぶ 学校情報セキュリティ」について、開発・販売元である広島県教科用図書販売の松田夕佳氏が、使い方の解説と教材のデモンストレーションを行った。

この教材には現在十四事例が収録されており、それぞれ三～五分程度のドラマ仕立ての学習用アニメーションを視聴した後、確認問題に取り組む。一事例あたり十分程度で修了でき、各受講者の進捗状況や受講履歴を管理者が随時把握することができるよう大きな特徴だ。毎年大幅なバージョンアップを行うので、最新の脅威に対応した研修を受けられるようになっている。

この日は二〇二一年度に追加予定の新事例「GIGAスクール構想で学校はどう変わるのか」の動画教材が披露された。クラウドを使うようになると何に気をつければよいのかがよくわかる教材だった。

学校情報セキュリティセミナー2020

～GIGAスクール構想を安全に実現するための学校体制を考える～

「事例で学ぶ 学校情報セキュリティ」 製品ご紹介

※プレゼン資料の画面キャプチャ

裏面へ続く

TOPIC 04

eラーニング教材で 研修を行った学校の事例発表

この教材を用いてeラーニングで情報セキュリティ研修を行っている学校が、実践発表とその効果を報告した。

札幌市立稲穂小学校の菅野光明校長は、まずeラーニング研修の必要性を訴えた。従来の研修は学校の代表者が集合研修を受け、帰校後に校内で伝達研修を行うのが一般的だが、「研修参加者に実務経験や知識が不足している場合、せっかくの質の高い集合研修を受けても学校で上手に伝えられない」「校内での伝達研修の時間確保が難しい」等の事情から、研修の「質」を保障する難しさに頭を悩ませていた。そこで菅野校長はeラーニングを導入した。そのねらいは、①従来の研修を補って質を高め、全ての教職員のレベルを統一する②業務の効率化を図る③継続的に研修を行い、最新の知識を習得する、の三点にあった。

その成果はすぐに現れた。年度を三分割して各期に学ばべき事例を四〇五程度設定したところ、「すべての教職員が受講しただけでなく、多くの先生が前倒しで自主的に学んでくれた」と、同校の研修担当である高田雄平先生は語った。受講した先生方からも好評で、「職員室のパソコンで仕事の合間に取り組めるのが良い」「家でもスマートフォンで手軽にできて便利」「動画を見て確認問題に取り組む流れが良い」「まったく知らないことがあり驚いた。勉強になった」等の感想が寄せられた。

旭川市立北光小学校の田中聡校長も、この教材を使って同校の先生方にeラーニングで研修を行った。

受講した先生方からは、「自分の都合に合わせて好きな時間に研修を受けられるのがよかった」「短時間で学べるのがよい」と好意的な感想とともに、「一人で研修を受けるので、先生間で意見交換ができない」「勤務時間外に自宅でも学べるのは便利だが、持ち帰り業務が増えるのではないか」との声も寄せられた。

田中校長先生は「新型コロナウイルスへの対応を見ると、今後はeラーニングやオンライン研修が増えるだろう。ただしそれぞれ長所と短所があり、それを考慮しながら研修方法を取捨選択する必要がある」と語った。

TOPIC 05

今までの情報セキュリティを 変える必要がある

続いて、柏市教育委員会教育研究専門アドバイザーの西田光昭先生が、「GIGAスクール時代の先生に必要な情報活用能力とは」と題して、特別講演を行った。

「GIGAスクールでは、今までのICT環境やその活用と大きく変わる部分があるため、情報セキュリティも変わっていくかなと思います」と、西田先生は警鐘を鳴らす。その最たる例が、クラウドだ。子供も先生も、学校だけでなく家庭でも、クラウド上にあるデータやシステムを使うようになる。データやシステムをファイヤーウォールの内側に置いて守るという従来の手法をとれないため、新たなセキュリティの心配が浮上する。例えば先ほど披露された動画教材「事例で学ぶ学校情報セキュリティ」が指摘していたように、クラウド上のデータを不注意に開いたままにしておくと、第三者に見られてしまう危険がある。

「先生や子供がクラウドで便利に情報を共有したり協働するには、システム側の制限はなるべく緩くしたい。でもそうすると危険性が高まるので、使う人のセキュリティ意識を上げなくてはならない。逆に言えば、使う人のセキュリティ意識が低いままではシステム側の制限を厳しくして守らざるをえなくなり、使い勝手が悪くなり、不便になってしまいます。使いやすさと安全のバランスを取ることが求められます」と西田先生は言い、「だから研修で学び、実際にICTを使いながら、一人ひとりがセキュリティ意識やスキルを高めていきましょう」と呼びかけた。

学校情報セキュリティセミナー 2020



ご登壇者

※写真はリモート時の画面キャプチャを使用しています



● 堀田 龍也 先生



● 西田 光昭 先生



● 新保 元康 先生

TOPIC 06

情報モラルやセキュリティを 子供も先生も学ぶ必要あり

最後に、東北大学大学院の堀田龍也教授が「GIGAスクール構想で学校の日常はどう変わるか」と題して基調講演を行った。

まず堀田教授は、GIGAスクール構想の背景を解説した。私たちの社会では今、デジタルトランスフォーメーションが起きている。同時に、人口減少が急速に進んで働き手の不足も深刻化していく。そんな社会で生きていく子供たちには、ICTを上手に使いこなしながら、未来を切り拓いていく力を育む必要がある。だから、GIGAスクール構想がスタートし、四千六百十億円という莫大な国家予算がつけられた。

注意しなければならぬのは、「GIGAスクール構想で整備されるICT環境とその活用は、今までのそれと大きく異なること」だと、堀田教授は指摘する。クラウド上にあるデータやツールを活用していくし、近い将来にはデジタル教科書が主流になる。子供たちの学習ログなどいわゆる教育ビッグデータを利用するようになるし、全国学力学習状況調査もコンピュータベース(CBT)で行われるようになるだろう。そもそも新学習指導要領は、GIGAスクールのICT環境が整備された前提で、子供たちに情報活用能力などの資質・能力を育んでいくことを求めている。

「そうなる」と、情報モラル教育も今までと変わらなければならない」と、堀田教授は言う。ネット等の危険性を教えるだけでなく、一人ひとりが学習の道具として上手に、適切に、健康に使えるように、カリキュラムを立てて、すべての先生が計画的かつ日常的に指導していく必要がある。そのためには、「事例で学ぶネットモラル」等の教材を活用するのが有効だと、堀田教授は助言する。

子供だけでなく、先生も情報モラルや情報セキュリティについて学ぶ必要がある。だが先生方は多忙であり働き方改革も進めなければならぬため、今日のセミナーで先生方が報告されたように、eラーニングで研修を行うなど工夫が求められる。「事例で学ぶ学校情報セキュリティ」のような「eラーニング教材を活用して研修する機会が、今後ますます増えていくだろう」と、堀田教授は講演を締めくくった。

この「学校情報セキュリティセミナー2020」は、十一月十四日には第二回が、十二月五日には第三回が、同じくオンラインで開催される予定だ。

お申し込みは ▶ <https://www.hirokyou.co.jp/seminar2020/>